

柱状図(41.00m~50.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	R Q D (%)	記事			
													0	20	40
			+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	9	0			41.30m: 60° 割れ目ぞいにφ2~4mm石英が多く晶出している。 41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。 41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破砕部主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m: 上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。 42.78~42.85m: D 風化で著しく軟化するが、岩組織や割れ目の一部は残留している。 ●42.85~42.91m: 破砕部(主せん断面42.85m)			
						CL'	100	8	0						
									CM'	100	13	33			
									CM'	100	11	11			
									CL'	100	12	12			
									CM'	100	11	21			
									CL'	100	11	11			
									CM'	100	6	0			
									CL'	100	7	0			
															42.85~42.87m: Hc-2 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。φ1~2mm石英粒、φ5mm粘土化岩片を20%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。 上端1~2mmは風化で褐色化(明黄褐: 10YR6/6)する。 色調は灰白(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。 42.87~42.91m: HJ 上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。φ5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR7/2)。厚さ60mm。 42.91~43.00m: D 締った砂礫状を呈する。岩組織と割れ目は消滅している。 白色粘土を脈状に伴う。 43.00~43.17m: CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。 43.17~45.66m: CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟在するが、挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。 一部でゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。 45.00~45.40m: 80~90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。 45.41~45.50m: 割れ目が交差し、一部φ5~2mmに片状化するが砂や粘土ははさまない。 45.66~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。 45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。 46.14~47.58m: CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。割れ目挟在物は殆んど分布しない。 47.00~47.23m: 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。 47.24~47.29m: 上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10mmに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。 47.58~47.77m: CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5mm程度砂状~細片状化。 47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目も含む。 割れ目挟在物は分布しない。 48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含んでいる。 割れ目ぞいに厚さ10~30mm程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。 48.61~50.56m: 硬さ「C」主体で、49.49m・40° 厚さ15mm、50.18m・35° 厚さ30mmで砂状~細片状化が進む。 灰白~褐色粘土も伴っている。

柱状図(50.00m~59.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大 コア 長 (cm)	最大 コア 長 (cm)	
				花崗斑岩	明褐 灰	CL'	100	4	0			50.00~50.42m: 70°前後の微細な風化割れ目が数波打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。
		100					4	0		50.56~51.16m: 硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3mmと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟化している。		
		100					6	0		51.16~52.00m: 硬さ「C」主体。		
		100					6	0		51.35~51.64m: 割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。		
		100					6	0		また白色粘土も少量伴っている。		
		100					5	0		52.00~52.32m: φ10~2mm硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。		
		100					5	0		52.32~52.75m: 長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。		
		100					3	0		52.75~53.10m: 岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。		
		100					3	0		53.10~55.82m: 密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。		
		100					2	0		割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。		
		100					3	0		色調が「橙色」を帯びようになる。		
		100					3	0		53.40~53.60m: 硬さ「B」に近い。また割れ目の挟在物も殆んど分布しない。		
		100	2	0		53.85~54.31m: 割れ目挟在物少ない。						
		100	2	0		54.35~54.59m: 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ、黒褐色化する。						
		100	2	0		55.08~55.55m: 割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。						
		100	2	0		55.08m: 25°厚さ5~10mmの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10mm砂状部伴う。						
		100	2	0		55.82~56.69m: 割れ目に挟在物が分布しないことが多い。						
		100	2	0		56.00~56.30m: 73~90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状~岩片状を呈する。						
		100	2	0		●56.69~56.72m: 破砕部(主せん断面56.72m)						
		100	2	0		56.69~56.72m: Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ3~10mm硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰(2.5Y6/1)。厚さ2mm。						
		100	2	0		56.72m: Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm。						
		100	2	0		56.72~57.29m: D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。						
		100	2	0		56.94~56.97m、57.00~57.02mはマンガン鉱染により黒褐色化。						
		100	2	0		57.29~58.89m: CL 40~50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟在物が多い。						
		100	2	0		58.51m以深では斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。						
		100	2	0		58.68mに10°幅1~3mm、58.82mに45°幅1mmの石英脈分布。						
		100	2	0		●58.89~58.98m: 破砕部(主せん断面・58.98m)						
		100	2	0		58.89~58.94m: Hj 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20~30°とこれに直交~斜交する割れ目でφ3~5mmに細片化、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土はさむ。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。						
		100	2	0		色調は褐灰(10YR4/1)。厚さ4mm。						
		100	2	0		58.94~58.96m: Hb 25°で上下端ともに波打って連続。φ2~4mm石英粒、φ5mm硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈す。						
		100	2	0		色調はにぶい黄橙(10YR7/2)。厚さ15mm。						
		100	2	0		58.96~58.98m: Hc-2 25°で上下端とも波打って連続。φ2~3mm石英粒、硬質岩片を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色おひる灰白(7.5Y8/2)。厚さ15mm。						
		100	2	0		58.98~59.69m: CL 59.50m以深では粘土をはさむことが多い。						

柱状図(59.00m~68.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大 コア 長 (cm)	長 (cm)	
	60			花崗斑岩	灰褐	CL'	100	5	0	0	20	<p>●59.69~59.75m: 破砕部(主せん断面59.69m)</p> <p>59.69m: Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐(10YR5/6)。厚さ1mm。</p> <p>59.69~59.75m: Hj 上端52°、下端37°でとも直線的に連続。φ5~2mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈す。粘土は分布しない。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ40~60mm。</p> <p>59.75~60.00m: CL 割れ目挟在物の分布は少ない。</p> <p>60.00~61.40m: CM 密着度の低い割れ目やゆる着割れ目を多く含む。割れ目の挟在物は少ない。各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。</p> <p>61.40~61.67m: CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。</p> <p>61.47~61.51m: マンガン鉱染により黒褐色化する。</p> <p>61.67~62.23m: CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。</p> <p>62.23~64.52m: CL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。</p> <p>62.82~62.93m: φ5~2mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土脈も伴う。</p> <p>63.03m: 30°割れ目ぞいに厚さ5~15mmがマンガン鉱染を受ける。</p> <p>63.04~64.17m: 硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む。</p> <p>63.60~63.70m: コアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。</p> <p>64.17~64.52m: 割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。岩組織は明瞭に残留している。</p> <p>64.52~66.39m: CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目挟在物は少ない。一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。</p> <p>65.19m: 38°割れ目ぞい厚さ10mmで軟化進む。薄い砂状部をはさむ。</p> <p>65.34m: 35°割れ目ぞい厚さ25mmの石英質部で硬質。淡緑灰色の緑泥石化、黒褐色マンガン化するが劣化は伴わない。</p> <p>65.59m: 35°割れ目ぞい厚さ20mmが砂状化~φ5mm細片化。</p> <p>65.61m: 35°割れ目を境として以深は堅硬化する。</p> <p>66.09m: 55°割れ目ぞい砂状化部はさむ。マンガン鉱染も伴っている。</p> <p>66.37~66.40m: 割れ目ぞい厚さ30~40mm淡緑灰色の緑泥石化。砂~粘土化部など劣化は伴わない。</p> <p>66.39~68.06m: CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。</p> <p>67.12m: 55°割れ目ぞい厚5mmで白色シルト状部をはさむ。割れ目面は褐色化する。</p> <p>67.30~67.70m: 60~90°の高角度割れ目に囲まれてφ10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2~3mm砂状化する。</p>

柱状図(68.00m~76.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	記 事
	70			花崗斑岩	明褐灰 褐灰 にぶい橙	D'	100	2	0		<p>68.06~68.93m : D 強風化で砂状化が拡大。φ10~20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。</p> <p>68.40~68.60m : 硬さ「D」の岩片からなる。</p> <p>68.69m : 30° 割れ目ぞい厚さ1mmが硬質な淡緑灰色を呈する。</p> <p>緑泥石化物。上端側に石英も伴う。</p> <p>68.93~70.10m : CL</p> <p>30° 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂をはきむことが多い。一部では厚さ10mm程度まで砂状化が拡大している。厚さ1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。</p> <p>砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。</p> <p>69.70m以深では一部の割れ目と岩芯で軽微なマンガン鉄染を受けている。</p> <p>70.10~71.72m : D</p> <p>風化と変質で著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。</p> <p>処々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。</p> <p>70.17~70.20m : 25° で波打ってマンガンが脈状に分布。黒色呈する。下盤側厚さ10mmで硬化した緑泥石化物を伴う。</p> <p>70.20~71.30m : 粘土化ないし砂状化部主体。厚1mm白色粘土脈が網状に分布する部分もある。</p> <p>71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mm石英がマンガン鉄染により黒褐色化する。</p> <p>71.72~72.65m : CL</p> <p>φ10~20mm硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。</p> <p>72.12~72.17m : 30° 割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。</p> <p>72.65~73.38m : D</p> <p>72.93~73.11mは強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。</p> <p>上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。</p> <p>73.18~73.19m : 20° 割れ目ぞいに厚さ10~15mmでマンガンが脈状に分布。</p> <p>73.38~76.23m : CL</p> <p>一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。</p> <p>密着度の低い割れ目やゆる割れ目が10mm前後で密に分布する。</p> <p>73.38~73.58m : 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3mm灰白色粘土脈をはさむ。</p> <p>74.04m : 25° 割れ目ぞい約20mm軟化進む。</p> <p>74.29~74.48m : 20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉄染伴う。</p> <p>また細かい密着度の低い割れ目も密集する。</p> <p>74.72~74.84m : 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。</p> <p>75.05~75.56m : 割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。</p> <p>75.46m : 0° 幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。</p> <p>粘土化などの劣化は伴わない。</p> <p>75.80~75.87m : コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の礫状コア化している。</p>
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		
					明褐灰	D'	100	3	0		
					明褐灰	D'	100	5	0		
					明褐灰	D'	100	5	0		
					明褐灰	D'	100	7	0		
					灰褐	CL'	100	5	0		
					灰褐	CL'	100	7	0		

柱状図(76.00m~85.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
	80			花崗斑岩	灰褐色に ぶい橙	CL' D'	100	2	0			76.11~76.23m: 10~20°の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5mm)をはさむ。 76.23~76.59m: D 76.41m以浅はφ3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。 ●76.59~76.89m: 破砕部(主せん断面76.59m) 76.59m: Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をくわすか(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明黄褐(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 76.59~76.65m: Hb 上端48°で、下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1~2mm石英粒、φ3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む軟質な「硬質粘土状」呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。 色調は灰白(7.5YR8/1)~にぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ40~50mm。 76.65~76.89m: Hj 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続。φ3~10mm硬さ「D」~粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり、「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55°、33°のせん断面(sj)が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白(7.5YR8/2)。厚さ240mm(コア長)。 76.89~79.15m: CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。 77.58~77.65m: φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 77.71~77.77m: φ5~10mm細片状~締った砂状呈する。 77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。 80.14~80.31m: 幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。 80.76~81.68m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染受ける。 81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。 81.90~84.40m: φ1~2mmの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。 83.30~83.74m: 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30~83.50m: 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。 84.06~84.54m: 10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。 84.54~84.71m: 砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。

柱状図(85.00m~95.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記 事
90			+	花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	3	0			85.03~85.61m : CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。
					褐灰	D'	100	2	0		85.36~85.60m : 割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 85.28~85.32m : 緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	
					にぶい黄橙	D'	100	2	0		85.61~91.35m : D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり全体として軟化が著しい。	
						D'	100	3	0		86.50~86.78m : 40~50° 割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	
						D'	100	3	0		87.18~91.35m : 強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。 このうち、87.18~87.52mの基質部はスライムである。	
					明褐灰	D'	100	6	0		88.18~89.00m : 残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	
						D'	100	3	0		89.00~90.14m : 礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	
					にぶい橙	D'	100	1	0		90.15~90.55m : 締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	
						CL'	100	3	0		90.55~90.85m : スライム。 90.85~91.00m : 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	
						CL'	100	4	0		●91.35~91.54m : 破砕部(主せん断面91.44m)	
			灰褐					91.35~91.43m : Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2~3mm石英粒、φ3~10mm粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。 色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄橙(10YR7/2)。厚さ80mm。				
								91.43~91.44m : Hc-1 25°で上端は湾曲して、下端は波打って連続。φ1mm石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)。厚さ7~10mm。				
								91.44~91.51m : Hb 上端25°、下端18°とともに波打って連続。φ5mm前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「礫質粘土状」を呈する。 色調は浅黄橙(10YR8/3)。厚さ30~60mm。				
								91.51~91.54m : Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、φ5mm程度に硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟弱粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)。厚さ20~25mm。				
								91.54~93.25m : D φ10mm前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。				
								93.25~93.66m : CL 70~80°割れ目が多く、割れ目ぞいに厚さ1~3mm程度の砂状部~粘土化部をはさむ。				
								93.66~93.86m : D 上下端80°割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。				
								93.86~99.50m : CL 50~70°とこれに直交する40~50°割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25~94.31m : 10~20°割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。 94.43m以深では岩片自身は硬さ「B」相当のものも多く含むが、割れ目が10~20mm程度の間隔で交差するため小岩片化している。 割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。				

柱状図(95.00m~105.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記 事
100				花崗斑岩	灰褐	CL'	100	2	0		<p>95.50~95.71m: 割れ目から分離。φ1mm前後に小岩片化している。</p> <p>95.96m: 60°割れ目に厚さ1mm灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5mmにマンガン鉱染部を伴う。</p> <p>95.94~98.05m: 硬さ「D」の岩片状コア主体。処々に硬さ「C」も混入する。</p> <p>96.52~97.60m: 30~40°と60~70°割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある(右ズレ3~5mm)。</p> <p>97.07m: 幅2~3mm, 15°石英脈。劣化は伴わず密着。</p> <p>97.58~97.69m: マンガン鉱染が進み黒褐色化。</p> <p>97.69~97.78m: 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2mm白色粘土が脈状~φ2~3mm斑点状で分布する。</p> <p>98.02m: 幅2~5mm, 30°石英脈。一部で褐色割れ目化する。</p> <p>98.19~98.92m: 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。</p> <p>98.92~99.50m: 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。</p> <p>●99.50~99.68m: 破砕部(主せん断面99.56m)</p> <p>99.50~99.56m: Hj</p> <p>上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mm白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。</p> <p>色調は明黄褐(10YR6/6)。厚さ4mm。</p> <p>99.56~99.57m: Hc-2</p> <p>38°で上下端とも波打って連続。φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結粘土(ガウジ)。</p> <p>色調は灰白(7.5YR8/2)。厚さ5~10mm。</p> <p>99.57~99.68m: Hj</p> <p>上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20mmに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ8mm。</p> <p>99.68~101.78m: CL</p> <p>上下端側は硬さ「D」、中央部は硬さ「C」主体。下端側の101.45m以深は風化、変質がやや進み硬さ「D」と軟化。</p> <p>100.00~101.00m: 密着度が低い割れ目~ゆる割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。</p> <p>101.45~101.78m: 幅1~2mm白色~黄色粘土が脈状に多く分布。</p> <p>101.78~104.28m: CM</p> <p>上端側の101.78~102.56mまでは硬さ「C」、102.56m以深は硬さ「B」で堅硬である。割れ目挟在物の分布は少ないが上端側硬さ「C」部分では、割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。</p> <p>102.56m以深の硬さ「B」の短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状の「ゆる割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。</p> <p>割れ目には殆んど挟在物は認められないが、一部で厚さ2~3mmで砂状~細片状部をはさむものもある。</p> <p>103.24m, 103.48mのいずれも65°割れ目は交差する割れ目を切り(変位置不明)、前者で厚さ2~3mm、後者で2mm程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。</p> <p>103.94~104.00m: 風化で淡褐色化し軟化する。</p> <p>104.28~105.88m: CH</p> <p>堅硬で塊状。</p> <p>一部でゆる割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。</p>
					明褐灰にふい橙						
					灰褐						
					褐灰にふい橙						
					灰褐						
					褐灰						
					CH'						

柱状図(105.00m~116.00m)

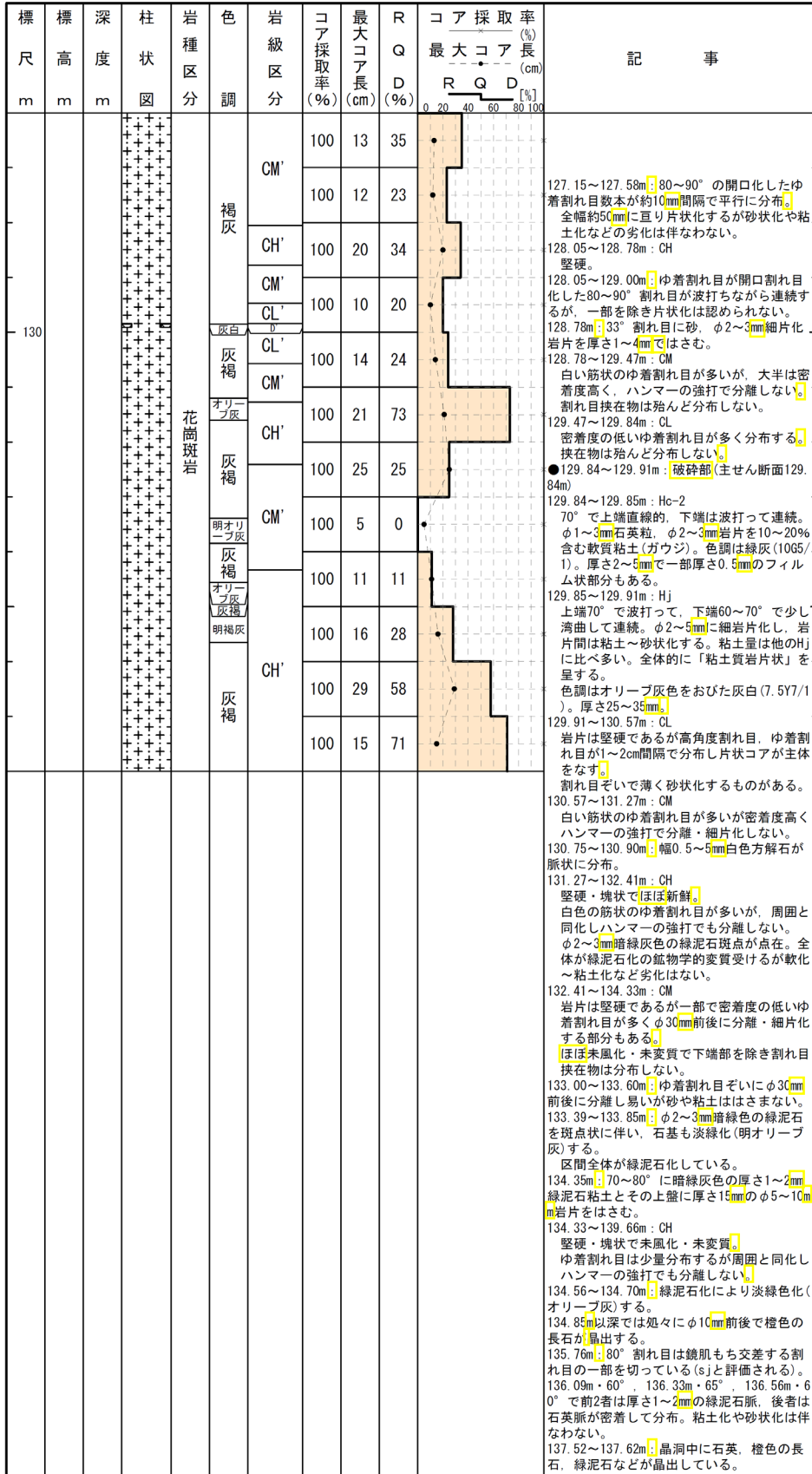
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	率 (%)	記事					
														0	20	40	60	80
110			+	花崗斑岩	褐灰	CH'	100	18	31					<p>105.16~105.19m: 割れ目ぞいに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。</p> <p>105.33~105.52m: 割れ目ぞいに軽微にマンガンを染受ける。</p> <p>105.88~108.71m: CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目ぞいに風化で褐色化する。 ゆ着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。 一部で砂や白色粘土の薄層をはさむが、挟在物のない割れ目が主体。</p> <p>106.32~106.60m: ゆ着割れ目が約1cm間隔で分布し、全体が軟化する。一部のゆ着割れ目は密着度が低い。</p> <p>107.30m以深ではφ2~3mmの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。 また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。</p> <p>107.60~108.60m: φ5~10mmと大型のカリ長石斑晶を多く含む。</p> <p>108.68~108.71m: 割れ目ぞいに細片化する。</p> <p>108.71~112.27m: CH 堅硬・塊状。 白い筋状のゆ着割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。 ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいはいごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。</p> <p>110.30~110.95m: 50~60°とこれに直交~斜交する10~30°割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。 両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。</p> <p>111.14m: 76°割れ目に厚さ1~2mm緑泥石粘土~シルトをはさむ。 φ0.1mmの微小なセリサイトも点在する。</p> <p>111.31~111.34m: 割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。</p> <p>112.00~112.27m: 70~80°とこれに直交する20~30°のゆ着割れ目が約1cm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。</p> <p>112.27~113.27m: CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。 ゆ着割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。 割れ目には挟在物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。 一部の割れ目で緑泥石が厚さ1mm程度砂状~シルト状を呈する。</p> <p>113.27~114.68m: CH 堅硬・塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。</p> <p>114.24m: 80°ゆ着割れ目ぞいにφ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。</p> <p>114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。</p> <p>軟化、粘土化などの劣化は伴わない。</p> <p>114.68~115.12m: CM 70~80°割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m間は上端厚さ5mm、下端30mmで砂状~片状化する。</p> <p>115.12~116.80m: CH 堅硬、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。</p> <p>115.12m: 80°割れ目の面に厚1mm程度の緑泥石粘土がはさまれる。 上盤側厚さ約30mmは片状化している。</p> <p>115.90~116.10m: φ5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。</p>				
					にぶい橙	CM'	100	10	10									
					褐灰	CM'	100	7	0									
					明褐灰	CM'	100	10	10									
						CH'	100	15	25									
						CH'	100	15	25									
						CH'	100	12	12									
						CM'	100	10	20									
						CH'	100	20	72									
						CM'	100	22	40									
						CH'	100	12	34									



柱状図(116.00m~126.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記 事
120			+	花崗斑岩	褐灰	CH'	100	25	47		<p>116.33m: 70~80° で湾曲する割れ目と40° 割れ目が交差。 後者は前者で切られる(変位量10mm右ズレ)。 両割れ目の一部に厚1mm, 交差部で5mmの緑泥石砂状~シルト(粘土)をはさんでいる。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるが仲着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟在物は分布しない。 117.32~117.39m: CL 75° 割れ目ぞいに厚さ20~25mmが風化で軟化する。 117.39~118.47m: CH 堅硬、一部で割れ目多いがコア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状の仲着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。 117.65~118.40m: 橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色の色調を呈する。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。 119.00~119.11m: CL 風化と変質が進み全体が軟化する。 ●119.11~119.25m: 破砕部(主せん断面119.18m) アブライト貫入部の破砕部。 119.11~119.16m: Hj 上端50° で直線的、下端60° で波打って連続。φ5~10mm角稜状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、1~3mmで緑灰色のいずれも軟弱粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰(10G4/1)。厚さ30mm。 119.16~119.18m: Hc-1 60° で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm石英をわずかに含む軟弱粘土(ガウジ)。 色調は緑灰(10G5/1)。厚さ7~10mm。 119.18~119.25m: Hj 上端60° で直線的に、下端43° で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5mmに細片化。岩片間の一部は幅1mm緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は暗緑灰(10G4/1)。厚さ40mm。 119.25~120.10m: CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mmの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09~120.10m: 60° , 厚さ10~15mm緑泥石脈で軟化している。 120.10~125.90m: CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。 121.60m: 仲着割れ目が開口割れ目化している。 122.36m: 65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。 122.61m: 60° 割れ目厚さ2mmの褐色砂はさむ。 123.63~123.67m: 割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。 125.00m以深では仲着割れ目は殆んど分布しない。 125.90~128.05m: CM 堅硬であるが仲着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物ははさまず、ほぼ未風化で新鮮。 ほぼ全区間に亘り60~90° の仲着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。</p>	
						CM'	100	10	10			
						にぶい橙	CH'	100	21			36
						褐灰	CM'	100	3			0
						暗緑灰 暗褐灰	CL	100	31			64
						褐灰	CH'	100	23			74
								100	21			76
								100	26			88
								100	20			47
								100	19			79
						CM						

柱状図(126.00m~138.00m)



柱状図(138.00m~151.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	長さ (cm)	記 事	
													R
	140		+	花崗斑岩	灰褐	CH'	100	27	72			138.35m, 138.50m: 仰着割れ目ぞいに開口割れ目化している。	
					緑灰	CH'	100	52	52				139.02~139.21m: 緑泥石化で緑灰色化する。
					灰褐	CM'	100	13	34				139.37m: 70° 厚さ2~3mm脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mmと微細な黄鉄鉱も点在する。
					明褐灰	CH'	100	16	48				139.66~139.96m: CM 割れ目がやや多くなる。 挟入物は分布しない。
					灰褐	CH'	100	14	14				139.96~140.39m: CH
					緑灰	CM'	100	10	30				140.13m: 65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟化など劣化はない。
					灰褐	CM'	100	8	0				140.39~140.61m: CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。
					緑灰	CM'	100	11	32				140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状。 一部で仰着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
					灰褐	CH'	100	13	13				141.40~142.00m: φ20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。
					緑灰	CH'	100	25	37				141.70m付近で色調が少し変化する。
					灰褐	CH'	100	22	62				141.97~147.08m: CM やや割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈する仰着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。
					にぶい褐	CM'	100	11	32				一部では開口割れ目化している。
					にぶい褐	CM'	100	15	39				142.32~142.43m: 割れ目が交差しφ20~50mm程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。
													142.70~142.76m: 緑泥石化で淡緑灰色を呈する。
													143.48~144.50m: φ3~5mmの橙色のカリ長石斑晶が上下位よりも多く晶出。カリ長石の一部は仰着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。
	150										仰着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。		
											143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45°。仰着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。		
											144.61~144.68m: 40~55°の仰着割れ目が密集する。		
											多くが開口化し易い。		
											145.37m: 50° 割れ目ぞいに厚さ15mmがφ2~10mmに細片化するが岩片は硬質。		
											砂や粘土ははさまない。		
											145.88m: 70° 仰着割れ目ぞいに厚さ約10mmで緑泥石化し緑灰色を呈する。		
											146.56~147.08m: 60~70°の仰着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟入物は分布しない。		
											147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状。 開口割れ目は殆んどが仰着割れ目が開口したもの。		
											残留している仰着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。		
											各割れ目面にはほぼ挟入物は分布せず、未風化で新鮮。		
											148.78m: 65° 割れ目面に厚さ1mm緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。		
											149.20~149.36m: やや割れ目が多いが劣化は伴わない。		
											150.04~150.59m: 50~80°・厚0.5mm以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。		
											150.41m: 緑泥石脈中に厚さ10mmの石英をレンズ状に伴っている。		
											150.59~151.57m: CM 20~40°と70~80°割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。		

柱状図(151.00m~161.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	記 事	
												R (%)
160			+	花崗斑岩	緑灰	CM'	100	15	25		<p>151.21m: 85° 割れ目の一部で厚さ2mmのφ2mm細片化部はさむ。</p> <p>151.50~151.52m: 石英と暗褐色鉱物が共生して分布。</p> <p>151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状。</p> <p>割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。</p> <p>一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。</p> <p>151.47~151.52m: 緑泥石化と珪化が進み硬化している。</p> <p>152.23~153.85m: B 堅硬、塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。</p> <p>割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。</p> <p>152.50~152.67m: 上下端を厚さ10~20mmの石英脈に囲まれた「プロトカタクレーサイト」であるが、角礫と基質は同化し硬化している。</p> <p>153.20m付近にφ10mmと大型・橙色のカリ長石斑晶が点在。</p> <p>153.25~153.60m: 60~80°と高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。</p> <p>153.85~154.60m: CH 堅硬、塊状。</p> <p>154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質。</p> <p>上端では割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などはさまない。</p> <p>154.60~156.18m: B 堅硬、塊状で割れ目少ない。</p> <p>155.25m以深で60~90°の高角白色筋状のゆ着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>155.25m: 70~80°割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が切られている(変位不明)。</p> <p>155.77~155.80m: 一部で緑泥石化しφ30mmの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。</p> <p>156.00~156.14m: 白色筋状のゆ着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。</p> <p>156.18~159.24m: CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。</p> <p>割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。</p> <p>156.50~156.90m: 割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。</p> <p>157.00m以深は20~40°割れ目が主体。</p> <p>157.35~157.89m: わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。</p> <p>157.83~157.89m: 30°程度でφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。</p> <p>158.20~158.30m: φ10mm前後の大型なカリ長石が点在。</p> <p>158.54mと158.62mに70~75°厚1~2mmで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。</p> <p>158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。</p> <p>159.24~160.40m: B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。</p> <p>緑泥石化により暗緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>割れ目挟在物も分布しない。</p> <p>全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には両色調がまだら模様を呈する。</p> <p>159.45m: 60°割れ目が交差する65°ゆ着割れ目を切っている(見掛け変位量2mm左ズレ)。</p> <p>160.40~162.57m: CH 堅硬、塊状。上下位に比べやや割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。</p>	
						CH'	100	43	90			
						緑灰	B'	100	36			95
						緑灰		CH'	100			21
						にぶい褐	B'	100	30			78
								CH'	100			16
						暗緑灰	CH'		100			26
								にぶい橙	B'			100
						CH'	100					32
							CH'	100	22			45